九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Retrospective clinical evaluation of posterior monolithic zirconia restorations after 1 to 3.5 years of clinical service

郡家, 浩人

https://doi.org/10.15017/1931835

出版情報：九州大学, 2017, 博士（歯学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

（様式６－２）

氏　　名	郡家　浩人
論　文　名	Retrospective clinical evaluation of posterior monolithic zirconia restorations after 1 to 3.5 years of clinical service （臼歯部におけるモノリシックジルコニアクラウンによる修復の 1 年から 3.5 年の臨床的評価）
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　前田　英史 副　査　　九州大学　　教授　　和田　尚久 副　査　　九州大学　　教授　　石川　邦夫

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

本研究は、monolithic zirconia restoration(MZR)の臨床的有用性について後ろ向きに評価し、成功に関連する要素を分析することを目的とした。2012 年 4 月から 2016 年 3 月に小臼歯及び大臼歯にプロトコールに基づいて MZR を装着した患者のうち、1 年以上のリコールに応じた患者および装着後失敗と定義された患者を含めた 101 名（男性 30 名、女性 71 名、年齢：45.1±10.1）に対する MZR148 装置についてカプランマイヤー分析にて評価を行った。平均観察期間は 25.0±9.9 ヶ月で、6 装置が失敗と定義された。失敗の内訳は、3 装置は歯髄症状にて除去、1 装置は歯根破折、1 装置は MZR の破損、1 装置はブリッジの支台装置として用いるため除去された。3.5 年の MZR の累積生存率は 91.5%であった（95%信頼区間 82.1%-100%）。

本研究でのプロトコールや過去の報告を通して､MZR の成功率を高めるための治療過程として、①支台歯形成のデザイン、②接着のための装置内面の表面処理、を含む臨床の手順が重要であることが考えられた。

以上より、本研究は、臼歯部の補綴治療における MZR の高い臨床的有用性と、MZR の臨床における可能性を明らかにする新知見を明らかにしたもので、博士（歯学）の学位授与に値すると判断された。